

都市計画マスタープランとは（よくある質問）

1. 都市計画マスタープランとは、何ですか。

人口構造や経済動向などの社会情勢を長期的に展望した、今後10年間の都市づくりの基本方針であり個々の都市計画の指針となるものです。（記載ページ 序-1）

2. なぜ、都市計画マスタープランを変更するのですか。

現在の都市計画マスタープランは、平成27年を目標年次とし、平成16年6月に策定されました。マスタープランの策定後、概ね10年が経過し、その間、少子・高齢化がより進み、近い将来には人口減少が始まる見通しであるなど、社会情勢が変化していることから、見直しを行おうとするものです。（記載ページ 序-2）

3. 都市計画マスタープランは、何年後をイメージしているのでしょうか。

本マスタープランはおおむね20年先の都市の姿を見据えつつ、目標年次を10年後の平成37年度としております。（記載ページ 序-2）

4. 10年前と比べ、千葉市の社会情勢はどのように変化したのでしょうか。

少子・高齢化が一層進行し、人口減少社会が始まろうとしています。また、地球温暖化をはじめとする環境問題の深刻化、産業誘致や居住促進をめぐる都市間競争の激化、東日本大震災などを経験したことによる、安全な都市づくりへの国民意識の高まり、さらには経済のグローバル化に現れる国際化や、情報通信技術の進化による情報化の進展などを変化と捉えています。（記載ページ 1-1～）

5. 今後の千葉市の都市づくりに求められることは、どのようなことなのでしょうか。

本マスタープランでは、今後の都市づくりに求められる視点として、以下の5つを捉えています。（記載ページ 1-6～）

- (1) 本市の広域的な役割
- (2) 交流人口増加による活性化
- (3) 産業活動の促進
- (4) 自然環境の継承
- (5) 安心で快適な暮らしの実現

6. マスタープランに書かれている、集約型都市構造とは、どのような都市のイメージでしょうか。

集約型都市構造とは、千葉市新基本計画にて今後の都市構造の基本的な考え方として定められているもので、人口が減少する時代を見据え市街地の広がりや機能の配置を考えた、都市の形です。市街地が分散しては住みにくく、都市運営の効率も悪いため、できるだけコンパクト化を図ろうとするものです。

本市がめざす集約型都市構造は、ひとつの中心部に都市機能が集中するものではなく、複数の拠点に都市機能を集約する多心型のもので、住宅や商業・業務など、市民生活に必要な諸機能を駅などを中心とした徒歩圏に集約し、利便性の高い生活の拠点の形成を目指します。このような都市機能を効率的にまとめた拠点同士を既存の公共交通ネットワークで結び、相互の補完や連携の強化を図ろうとするイメージです。（記載ページ 1-11）

7. 集約型都市構造をめざさずに、このまま市街地の拡大や、人口減少・高齢化が進むと、どのようなことが懸念されるのですか。

人口減少が続くと、一部の地域では、公共交通サービスやコミュニティの維持ができなくなることや中心市街地の空き家・空き店舗の増加による衰退、また、人口密度が低い市街地が広がることで、道路や下水道などを非効率な状態で維持しなければならなくなる懸念があります。

（記載ページ 1-10）

8. “集約型”ということは、郊外部から駅周辺などに、住替えが必要ということですか。

駅周辺等の公共交通の利便性の高い地域に都市機能の集積を進め、拠点形成するとともに、公共交通のさらなる充実により拠点同士の連携の強化を図り、過度に自家用車に頼らない都市をつくることで集約型都市構造をめざすものですが、居住や都市機能はゆるやかに集約することを考えております。
(記載ページ 1-11)

9. このマスタープランは、どのような理念や目標を定めているのでしょうか。

本市は、穏やかな気候や、地理的・自然的条件に恵まれ、集積した産業や誇るべき観光資源を有しています。これらの財産を活かし、はつらつとした市民の活動や産業活動を背景に、平日も休日も暮らしやすい魅力ある都市をめざすこととしています。(記載ページ 2-1)

10. 千葉市ではどのような都市構造をめざしているのですか。

大都市にふさわしい、諸機能のバランスのとれた多心型の都市構造をめざすとともに、自然環境との調和と保全を図りながら、集約型都市構造の実現をめざします。また、広域的に人・物・情報が行き交う拠点としての交流を促進し、市民の円滑な都市活動や県内の産業活動を支えることのできる都市構造をめざします。(記載ページ 2-4)

11. 重要地域拠点とは、どこでしょうか。また、どのようなイメージなのでしょうか。

千葉市の都心の機能を補い、将来も市民生活に必要な幅広いサービスの提供を受けられる拠点であり、後背地に大規模な住宅地などを抱えるJR線の稲毛、幕張、都賀、鎌取の各駅周辺を位置付けるものです。(記載ページ 2-6)

12. 高速道路のインターチェンジ周辺に産業拠点がありますが、何か整備を考えているのでしょうか。

高速道路の交通利便性の高さを活かした、民間企業等による工業や物流施設などの進出を誘導するものです。なお、周辺の環境やインフラ等に問題を生じないことを前提とします。
(記載ページ 2-6)

13. 具体的に、どのような都市づくりを位置付け、進めていくのでしょうか。

マスタープランでは、3章に都市づくりの基本方針として、今後の取組みの基本的な方向を、以下の6つのテーマに分けて、記述しています。(記載ページ 3-1~)

- (1) 「魅力と個性を高める都市づくり」(魅力ある拠点の形成、ベイエリアのブランド化)
- (2) 「活力を高める都市づくり」(地域産業・商業の活性化、農林業の振興)
- (3) 「緑と水辺の都市づくり」(緑と水辺の質の向上と保全、緑と水辺の利活用)
- (4) 「環境と共生する都市づくり」
(エネルギー有効活用と地球温暖化防止、資源の効率的・循環的な利用、良好な生活環境の確保)
- (5) 「快適に暮らせる都市づくり」
(質の高い市街地環境の形成、高齢者や障害者が安心して暮らせる環境整備、交通ネットワークの整備)
- (6) 「安全な都市づくり」
(地震に備えるまちづくり、河川・下水道(雨水)等の整備、災害発生時の被害の軽減)

14. マスタープランの都市づくりの基本方針に記載される内容は、どのように実施・実現されていくのでしょうか。

都市計画マスタープランは、市政運営の基本指針である千葉市新基本計画を踏まえるとともに、緑と水辺のまちづくりプランや、地域防災計画、住生活基本計画など、連携・整合を図る各行政分野ごとの計画があり、具体的に都市づくりは、これらの各計画による取組みや、マスタープランに即して検討される個別の都市計画により、実施・実現されることとなります。(記載ページ 序-2)

15. 千葉市全体ではなく、もう少し小さく身近な区域でのまちづくりは、どのように考えていったらよいのでしょうか。

本マスタープランとは別に、市民が主体となって地域別構想を立案することができ、また、この検討のため、アドバイザーの派遣など、「やってみようよまちづくり支援制度」の活用などもできます。
(記載ページ 4-1)

16. 千葉市の現在を表すデータは、どのようになっているのでしょうか。

現在の千葉市を表す、人口や産業などの各種データを、参考資料に掲載しています。
(記載ページ 参-1~)